

## 2019年度重点領域研究助成費 中間報告書

2020年 3月 31日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	住吉 和子
研究課題	「ヒューマンケアリング」を習得するための看護カリキュラムの作成 (2019年度～2020年度)					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	住吉和子	看護学科・教授	成人看護学	統括	
	分担者	渡辺富夫 森本美智子 関根紳太郎 井上幸子 岡崎愉加 名越恵美 山形真由美	情報システム・副学長 看護学科・教授 看護学科・教授 看護学科・准教授 看護学科・准教授 看護学科・准教授 看護学科・助教	情報システム 基礎看護学 英語教育 精神看護学 母性・助産 成人看護学 在宅看護学	アドバイザー 他大学の情報 英語教育の情報 作業・精神領域の情報 作業・母性領域の情報 作業・成人領域の情報 作業・材滝領域の情報	
初年度の成果	<p>2019年度は7回のワーキングを開催して以下のことを確認した。(資料あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2018年度ワーキングで作成した「ヒューマンケアリング」の定義の確認と一言で説明できる文を作成し、看護学科に報告した。</li> <li>京都で開催されたジーン・ワトソン博士の「ヒューマンケアリング」に関する講演に参加し、ヒューマンケアリングの最近の動向について共有した。そのご、現カリキュラムの中にヒューマンケアリングの様相であるカリタスプロセスが含まれている状況について確認した。(資料あり)</li> <li>ヒューマンケアリングについて訳されている安酸史子教授を招いて、看護学科の教員を対象にヒューマンケアリングと看護教育についての研究会を開催した。その後ワーキングのメンバーと講師の先生で、カリキュラムに取り入れるための具体的なアドバイスをいただいた。</li> <li>現段階で学生には、「癒された体験(ケアリングモーメント)の体験を講義終了後の感想に記載してもらい、日常の中での「ケアリング」に気づくようにした。</li> <li>国公立大学で、ヒューマンケアリング、ケアリングを理念としている大学のカリキュラムを確認した。</li> </ol>					

※ 次ページに続く

<p>調査研究の進捗状況と今後の推進方策</p>	<p>1. 在校生、卒業生を対象とした調査について  初年度に予定していた在校生、卒業生を対象とした「ヒューマンケアリング」の定義と体験の有無、能力について、現カリキュラムで3年次に「ヒューマンケアリング」という科目があるのみで、4年間継続して能力の育成、確認をしていないことから、調査を見合わせた。その代わりに2019年度には1年時の看護学概論で「ヒューマンケアリング」の概念の説明とカリタスプロセスの一部が説明された。また2つの科目で、「ヒューマンケアリング」を意識づけるために、「ケアリングモーメント」を確認した。2020年度には、1年生から4年生を対象として、「ヒューマンケアリング」についての理解をインタビュー調査で確認する予定である。卒業生を対象とした調査は、現カリキュラムで「ヒューマンケアリング」が一科目のみであり、継続した教育を行えていなかったことから、調査を見合わせる予定である。</p> <p>2. 特色ある大学の見学について  千葉大学看護学部、宮崎県立大学、札幌市立大学、高知県立大学を訪問し、カリキュラムと学習の効果、各教科の関連、4年間の学習一貫性、カリキュラムの評価などの情報を得るために、1月から3月に大学訪問を計画していたが、新型コロナウイルス感染症のために延期した。訪問ではなく電話などで情報交換を行う予定である。</p> <p>3. カリキュラム改革のアドバイス  既存のカリキュラムに縛られることなく、最小限の時間で最大の効果が得られるようなカリキュラムを作成し、看護界を牽引している先生方からアドバイスをいただいて現実に運営可能なカリキュラムを作成する予定である。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>1. カリキュラムワーキング議事録（資料1）</p> <p>2. 現カリキュラムとヒューマンケアリングカリタスプロセスの一覧表（資料2）</p> <p>* 重点配分のメンバーは、看護学科の2019年度カリキュラムワーキングのメンバー9名のうち、重点配分への参加に同意が得られた7名である。今年度は調査を実施していないため、カリキュラムワーキングと重点配分での内容は同様のものである。</p>